

平成29年度 県立淡路高等学校 学校評価

1. 学校の教育目標

- (1) 総合学科の教育内容の充実を図り、自己実現に向けてチャレンジする生徒を支援し、将来地域社会に貢献できる人間を育成する。
- (2) 本校が有する人的・物的な教育資源や豊かな自然環境を活用して、環境教育を充実させ、地域社会の一員としての自覚と責任感を養う。
- (3) 阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かした防災教育を、地域社会との連携のもと、継続・発展させ、社会性や豊かな人間性を育む。

2. 今年度の重点目標

- ア 各系列の連携・強化を図るとともに、基礎学力の向上に取り組み、進路目標に向かって努力できる生徒を育成する。
- イ 生活指導の充実に全職員が一体となって取り組み、基本的な生活習慣や健やかな体、豊かな心を身につけた生徒を育成する。
- ウ 開かれた学校づくりを推進することにより、学校・家庭・地域の三者連携を深め、郷土を愛する態度を身につけた地域に貢献のできる生徒を育成する。

A: 現在の取り組みを継続、充実させる B: 若干の改善が必要 C: 大幅な改善が必要

評価分野	評価項目	達成状況	自己評価の理由	改善案	
1	学習活動	1-1 考える授業	A	○生徒に授業の目標を提示し、生徒の学び合いの要素を育む視点に立って授業改善を行い、そのために新しく生徒用振り返りシートを作成し利用した。 ○教員3名のグループによる公開授業の実施と授業研究に取り組み、全教員が互いの授業について協議し、自らの授業改善に取り組んだ。	○今年度取り組んだ、生徒の学び合い姿勢を育てる授業改善を継続する。そのために、生徒が活動的に取り組める教材研究や、対話的手法を用いた授業実践に取り組む。
	1-2 基礎学力向上	C	○生徒の小テストなどへの取組状況は良いが、継続的に学ぶ姿勢と小中学校段階で身につけるべき基礎学力の定着に課題がある。 ○なぜ学ぶのか、その意義が見出せず、家庭学習の時間が少ない生徒が非常に多い。	○英語、数学、国語における「淡高スタンダード(学びの基礎指標)」を定め、基礎学力定着のための朝学を実施する。 ○学びに向かう意識向上を図るために、図書館を利用した学習活動やICT機器を用いた授業機会を増やす。	
2	系列の充実	2-1 魅力づくり	A	○生徒の進路希望や学習希望を考慮し、生徒の興味・関心に応じた選択群が配置できるように、カリキュラム編成を行っている。	○生徒のニーズを適切に把握し、年間を通してカリキュラム委員会を実施して、魅力ある教育課程の編成に努める。
	2-2 魅力の発信	A	○外部講師の活用や新商品開発、総合学科発表会の内容の充実などに取り組むことで系列の特色化を図り、あらゆる機会を通じて、学びの内容について校外外を問わず広く知ってもらう。	○総合学科の特徴を活かし、複数の系列が各々の強みを持ち寄って、互いに協力して新しい学びの可能性を探る。 ○資格取得やコンテストへの挑戦、新しい商品開発など、従来の成果を継続発展させていく。	
3	進路指導	3-1 将来像の形成	A	○3年次の進路決定において、好調であった昨年以上に進路実現が達成できた。 ○生徒が自らの将来像やライフプランについて学ぶ機会を設けた。	○「産業社会と人間」「総合学習」の内容を見直し、広く社会に目を向けさせて、将来にわたって学び続けていく姿勢の養成と、正しい勤労観・職業観の育成に努める。
	3-2 情報提供と連携	B	○年次と進路指導部、総合学科推進部が連携を図り、系統だったキャリア教育を推進していく必要がある。 ○進路指導部だけの発行回数が不定期で、適切な情報提供ができていない。	○進路指導部と総合学科推進部が中心となって、各年次と連携・協力して、3年間の系統だったキャリア教育モデルを作成する。	
4	生活	4-1 基本的な生活習慣	A	○挨拶ができる生徒が増加し、遅刻者数が大幅に減少した。 ○特別指導件数は減少傾向にあり、以前と比べて生徒たちは落ち着いた学校生活を送っている。	○朝の校門立ち番を継続実施し、挨拶、服装・頭髮指導を丁寧に行う。 ○校門付近における下校時の送迎待ちなど、校外外でのマナー向上に向けた具体策を考案する。
	4-2 部活動・学校行事	B	○運動部への加入率が増加し、放課後に活気のある学校生活が展開できている。その一方で、遠距離からの通学生が多く、少人数の部活動も多い。 ○体育祭や淡高祭、球技大会などにおいて、生徒会が中心となった生徒主体の運営が育ちつつある。結果、生徒・保護者アンケートにおける満足度の上昇に結びついている。	○リーダーシップを育成し、目標を持った学校生活を過ごすために、生徒に対して部活動への加入を促す。 ○行事内容の精選と見直しを継続して行い、生徒が活躍できる場の提供と、生徒主体の運営を心がける。	
	4-3 心身の健康	B	○キャンパスカウンセラーの利用者数が増加し、日常的にも生徒に積極的にかかわり、生徒の心を理解し、寄り添う姿勢が必要である。 ○薬物乱用防止の講演会や、心のサポート事業「いじめや不登校の未然防止」に関する講演会やホームルーム活動などを実施している。	○学校行事やホームルーム活動、ボランティア活動、講演会などを通じて、集団の中で仲間と協調できる人間性の育成に努める。	
	4-4 環境整備	A	○日々の清掃活動に、教職員・生徒が心を一つにして取り組んだ。 ○物品や施設の破損もほとんどなく、物を大切にすることが芽生えてきた。	○日々の清掃活動を徹底し、生活空間を美しい状態に維持する。 ○人や物を大切にすることを育み、気持ち良く集団生活ができる環境を整える。	
5	生きる力	5-1 人権	A	○ホームルーム活動や講演会など、計画的に人権教育を実践した。特に今年度は、人権ホームルームを島内の高校教員に公開する機会を得た。	○教育活動全体を通して、「自己有用感」と「他者貢献」の気持ちを育てる。
	5-2 防災・安全	A	○1月に地域と連携した総合防災訓練を実施し、地元の住民も多数参加し、消火活動に取り組んだ。 ○東北ボランティアも定着し、夏休みを利用して2名の生徒が参加した。	○総合防災訓練のあり方と内容について吟味し、北淡震災記念公園や地域と連携した防災・減災についての活動を一層推進する。他校に提案できるような取り組みを考案する。	
6	開かれた学校	6-1 広報活動	A	○年間3回(日数は4日)のオープン・ハイスクールを実施し、本校の学習内容や雰囲気を知ってもらい良い機会になっている。 ○学校ウェブサイトの更新を頻繁に行うことで、各系列や年次の取り組み、学校行事や部活動の様子について新鮮な情報を広く発信できた。	○オープン・ハイスクールにおいて、好評を得ている生徒が主体となった運営を継続する。 ○本校の魅力を広く知ってもらうために、継続的に中学校訪問を行う。
	6-2 地域連携	A	A	○授業や部活動、ボランティア活動の中で、地域と連携した活動が定着してきている。今後もさらに生徒の地域への貢献意識を高めていきたい。	○県政150周年事業の一環として取り組む商品開発など、各系列の特徴を活かした学びを地域に還元する方策について研究する。 ○市や地元地域に対して、学校側から積極的に地域連携を提案していく。
	6-3 意見収集	A	○オープンハイスクールでのアンケート結果や、保護者アンケートの意見を吸い上げ、日々教育活動の改善に努めている。 ○年2回の学校評議員会で聴取した意見を参考にして、学校改善に取り組んでいる。	○学校ウェブページ等を通じて学校の広報活動を推進すると同時に、地域や周囲の意見を収集して、学校の進むべき方向性を探る。	

※上の項目を点検するための評価シートを作成し、生徒アンケート、保護者アンケート、教職員アンケート、授業アンケート、生活アンケート、実施状況、実績等により評価を行い、学校関係者の方々にご意見をいただいた。頂戴した主な意見は以下の通り。  
 (ア) 専門学校にも学力の低い学生が見られるが、目標を持つことで学力を伸ばしている学生が多数いる。高校生も目標を持つことが大切だと思う。  
 (イ) 防災関連で東北に行くと、淡路高校の話がよく出る。今後も、北淡震災記念公園を利用して学習してもらいたい。見学者への語り部活動ではお世話になっているが、その他のイベントでも積極的参加をお願いしたい。高齢化が進む地域において、高校生の活躍に期待している。  
 (ウ) ボランティア活動や福祉活動など、生徒が地域に出て外部活動に参加することで達成感や他者貢献感を得ることができ、生徒をやる気にさせる原動力となると思う。また、ボランティア活動に積極的に参加している生徒は人との接し方も上手で、体験が人を育てているように感じる。